

令和元年度 大学等におけるインターンシップ表彰選考委員会 所見

今般、「大学等におけるインターンシップの届出制度」における取組の中から、学生の能力伸長に寄与するなどの高い教育的効果を発揮しており、他の大学等や企業に普及するのに相応しいモデルとなり得るインターンシップをグッドプラクティスとして表彰し、その成果を広く普及することを目的として、大学、短期大学及び高等専門学校から正規の教育課程におけるインターンシップの取組について公募を実施した。

公募の結果、大学から 52 件、短期大学から 2 件、高等専門学校から 5 件の計 59 件の申請があった。今回の申請では、単なる就業体験や授業科目としてのシミュレーションによる取組の域を越え、受入企業等における実際の課題から抽出されたテーマを解決する取組など、社会で生きる実践的なインターンシップが広がりつつあることを高く評価したい。また、大学等における学びを実践の場で活用するために綿密な事前学習や中間フォローの実施、相当数にのぼる受入企業等の開拓と継続的な実施のための良好な関係構築に努めている等の取組が多数見られたことについても評価したい。

選考は、「大学等におけるインターンシップ表彰選考基準」に基づき、

- ①就業体験を伴うこと
- ②正規の教育課程の中に位置付けられていること
- ③大学等の組織的な取組として位置付けられていること
- ④インターンシップ実施後の教育的効果を把握する仕組みが取られていること
- ⑤5日間以上のインターンシップの実施期間が確保されていること
- ⑥大学と企業等が協働した取組となっていること

の6つの基準で書面及び面接による評価を踏まえて実施した。

選考の結果、最優秀賞として新潟大学、優秀賞として跡見学園女子大学、甲南大学及び宮崎大学を選定した。これらの大学は、教育課程における位置づけやねらいが明確である、教育的効果の把握をインターンシップ終了時点にとどまらず継続的に実施している、専任のコーディネーターを配置している等の取組が優れた点として評価された。さらに、受入先企業等にとっても有益となるプログラムを設計することで、教育的効果の高いインターンシッ

プへの理解醸成と、継続的な受入先の確保という好循環を生み出している点を高く評価し、選定に至った。

特別賞の対象である数理・データサイエンス・AI分野におけるインターンシップについては、表彰対象を選定するには至らなかった。今後の取組の拡大に期待したい。

一方、大阪府立大学については、博士課程教育の魅力向上や博士人材のキャリアパスの拡大に資する観点から、選考委員会特別賞として選定している。

なお、各選考基準は、全ての大学等における取組を評価するために抽象化された要素であるが、一部の申請書は、外形的に満たしている旨の説明にとどまるものが見受けられた。今後はより多くの大学等が、実施目的、意図、具体的な設計及び求める定量・定性での成果等を明確に設計してインターンシップに取り組むことを期待する。

また、今回は残念ながら短期大学や高等専門学校における取組を表彰するに至らなかったが、これらの学校でも特定の資格取得や専門性を高めるための質の高い実習を実施している。本表彰は「インターンシップ」と称される取組を表彰するものであるが、高等教育において、学校における学びを社会で実践し、そこで得た気付きや新たな学びを学修に還元するという好循環が活発になることを期待する。

今後、我が国の社会が Society5.0 や人生 100 年時代を迎える中では、新たな価値の創出による課題解決が重要になるといわれている。このような社会において、高等教育は、学生・大学・企業等といった異なる属性の者がそれぞれの立場からそれぞれの価値観に基づき協働する段階から、新たな社会を担う人材育成に共通の価値を見出し、共通のビジョンを描きながら協働していく段階にシフトする必要がある。インターンシップは、この変革をも促す重要な役割を担いうる手段である。大学等における学術知と、社会における実践に基づく経験知が活発に往還する未来の実現に向けて、インターンシップの更なる充実を期待したい。

令和 2 年 3 月 9 日
大学等におけるインターンシップ表彰選考委員会
委員長 土屋 恵一郎